

# 光明寺だより

## 第101号

浄土真宗本願寺派

### 光明寺

〒793-0030 西条市大町550

TEL 0897-53-4583



心に残る詩



新しい元号よ 埼玉県 増田博 81

新しい元号よ

戦争と災害は

連れてくるな

平成の世は

戦争はなかったが

災害で苦しめられた

新しい元号よ

その時代の誰もが

平和の時代だと

歴史に残る元号で

あつて欲しい

産経新聞「朝の詩」より

## 秋季彼岸会法座

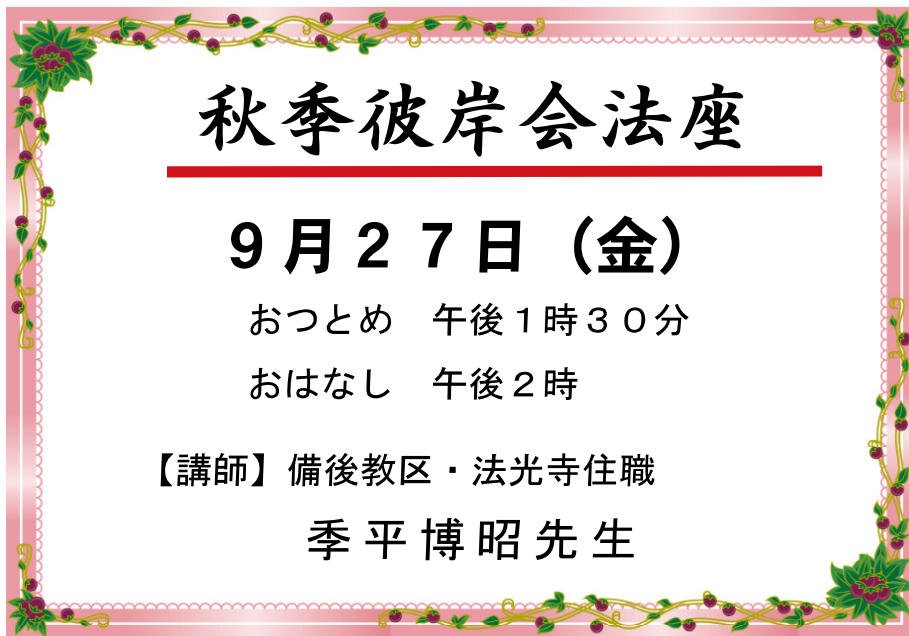
### 9月27日(金)

おつとめ 午後1時30分

おはなし 午後2時

【講師】備後教区・法光寺住職

### 季平博昭先生



# 一口法話



## いのちの日めぐり

浄土真宗の布教使として長年活躍された雑賀正晃先生の著書「自己を灯と為す」の中に、先生と懇意にされていたあるお寺のご住職のことが書かれていました。

そのご住職というのが、少し以前から体調を崩し、病院で診察を受けることになったのです。診断の結果、すでに手遅れの癌でした。手術も出来ない状態で、長く生きても、あと3ヶ月の命だということが分かるのです。

担当の医師はこのことを本人には知らせず、奥さんだけに知らせました。

しかし、動揺を隠せない奥さんの様子に、ご住職は、自分の病気が予想以上に重いことを悟り、担当の医師に尋ねるのです。

「先生、正直なところ私の病状はどんなものでしょうか。病気がかなり重いことは家内の様子を見れば分かります。

おそらく先生は、私に本当のことを知

らせるのは忍びないと思われることでしょうか、そんなお氣遣いはご無用です。もし、今ここで、あと一月の命だと聞かされて泡を吹いてぶっ倒れたとしても、『無理もない』と仰って下さるのが私どもの仏さまです。

『後に残す妻や子供のことを思うたら、死んでも死にきれんわなあ。それが当たり前じゃ』と、涙を浮かべてくださるのが親鸞聖人というお方なんです。

何もことさら表面だけを立派ぶる必要などどこにもないのです。ありのまままで救われていくのが私どものお念仏の教えです。ですから先生！ご心配は要りません。どうか本当のことを教えて下さい」

このご住職の言葉に、担当の医師は心から納得し、改めて本当のことを告げるのです。医師の言葉は、文字通り「死の宣告」です。

それを聞かれたご住職は、長くない命ならばと、たつての入院を断り、残された日々を悔いなく過ごし、最期の死を自分のお寺で迎えたいと決意するのです。

お寺へ帰ったご住職が、まずしたこと、三か月分の「日めぐり」を作ることでした。三か月のいのちと宣告されてい

ますから、それ以上の「日めぐり」は必要ありません。

その「日めぐり」を自室の柱に打ちつけ、その日から一日終えるごとに一枚づつ破っていったのです。

一枚破るたびに「ああ、今日も一日生かされた・・・」という思いと同時に、かけがえないその一枚を破らねばならぬ惜しさに、深い嘆息を禁じえなかつたといわれています。

三か月分の「日めぐり」は、そこそこの厚さがありますが、一日一枚、日を追って薄くなるその「日めぐり」は、それを破る住職の残された命の長さでもあるのです。

まさに、「いのちの日めぐり」です。

こうして一日一日を惜しみながら生き抜いたご住職は、ついに後三枚残すところで命が尽きてしまいました。

思えば、この「いのちの日めぐり」は、私たちが、この世に生を受けた時から、誰もが持っているものです。そして、一日終えるごとに、一枚、一枚と破っているのです。ただ私たちは、その「日めぐり」が最初から70年、80年と綴られているように思っていますから、その一枚に何の

重みも感じることなく安易に破り捨てているのです。

平均寿命を自分に当てはめ、「あと30年は生きられる」「あと20年は大丈夫」。そんな緊張感のない気持ちで、私たちは「いのちの日めぐり」を破っているのです。

私事になりますが、私のお寺にも毎年「日めぐり」の暦が、あるタクシー会社から送られてきます。「日めぐり」は、目のつくところに掛けているのですが、不精な私は、しょっちゅう破り忘れ、何日もたつて、あわてて4日分、5日分とまとめて破ることがあります。もちろん破った日めぐりは、くしゃくしゃと丸めてゴミ箱に捨ててしまいます。

先ほどのご住職が懸命に生きた一日一日を、私は4日も5日もまとめてゴミ箱に捨てているのです。まことに粗末な日暮らしをしていることに気付かされません。

(3) 令和1年9月 光明寺だより 101号  
いのちの本当のあり方から言えば、確かなことは、「今、「このひと時」だけです。ですから、「いのちの日めぐり」はその日の一日分だけしか掛かっていないというのが本当なのでしょう。そうして、無

事その日が終わり、めでたく次の日を迎えることが出来た時、前日の一枚を破り、新たにその日の一日分だけの日めぐりを掛けるのです。

それが「いのちの日めぐり」の本当のあり方だと思えます。

かけがえのない一度きりの「いのち」を頂いている私たちです。4日分、5日分と、その日めぐりをまとめて破るような、そんな安易な日々を過ごすのではなく、一日一枚の日めぐりの重さをしっかりと受けとめ、この「いのち」を本当に生かす人生を、歩んでいきたいものです。

仏さまの教えは「かけがえのない生かされたいのちをいかに大切に生きるか」。そのこと一つを説いているのです。

なにもかも我一人のためなりき  
今日一日のいのち尊し



## 春の『彼岸会法座』開催



3月22日(金)午後2時より、大阪教区・法栄寺前住職・小林顯英先生をお招きして春の彼岸会法座を開催いたしました。今回は浄土真宗での葬儀に関わる仏事の本来の意味などについてご講話頂きました。

20名の参拝がありました。

## 【講演主旨】

少し以前までは、亡くなりますと、お家の人がお寺に電話を入れて、「〇〇が今、亡くなりました。

枕経をお願いします」とお願いしたものです。近年は葬儀屋さんが葬儀の一切の段取りをしますから、枕経の依頼というものはなくなりました。

ところで、この枕経という言葉ですが、故人の枕元でお勤めをするということからこの名がついたのでしょうか、正式には「りんじゅうごんぎょう臨終勤行」と言います。これは本来、臨終を迎える本人が、導師となって阿弥陀さまにお礼を申し上げる生涯最後のお勤めです。

阿弥陀さまは「我、名号(南無阿弥陀仏)になりて、衆生(私たち)に到り、衆生とともに浄土に往生せん。もし衆生生まれずば我も帰らず」とお誓い下さいました。

学僧・原口針水和上は「我とな称え 我聞くなれど なむあみだ南無阿弥陀仏 連れてゆくぞのおや弥陀の呼び声」とそのご本願のお心を讃嘆されました。

このように、浄土に往生させずにはおかないという阿弥陀さまのご本願のお救いのハタラキの確かさを喜んでいくのが、念仏者の人生です。

その阿弥陀さまのご本願に出遭えたことを喜び、「私のいのちは浄土に生まれ仏にさせていただくいのちだったのですね。ありがとうございます。南無阿弥陀仏、南無阿弥陀仏」と阿弥陀さまにお礼を申し上げるのが臨終のお勤めなのです。

そうは言っても、息も絶え絶えの臨終にあって、お礼のお勤めをすることは実際にはなかなか難しいことです。そこで「いのち」終える時、お坊さんに来ていただき、代ってお勤めをしているのが大方の臨終勤行です。

葬儀に関わる仏事は、この臨終勤行を初め通夜勤行(お通夜)・葬場勤行等々、ありますが、これらの仏事はあくまで故人を偲びつつ、故人の浄土往生を尊いご縁として、残された者が仏恩報謝の念いを深める仏事にしていくことが大事なことです。

## 私たちのちかい

- 一、自分の殻からに閉じこもることなく  
穏やかな顔と優しい言葉を大切にします  
微笑ほほえみ語りかける仏さまのように
- 一、むさぼり、いかり、おろかさに流されず  
しなやかな心と振る舞いを心がけます  
心安らかな仏さまのように
- 一、自分だけを大事にすることなく  
人と喜びや悲しみを分かち合います  
慈悲じひに満ちみちた仏さまのように
- 一、生かされていることに気づき  
日々に精一杯せいいつぱいつとめます  
人びとの救いに尽くす仏さまのように

### ★「私たちのちかい」について

伝灯奉告法要の初日（平成28年10月1日）、新ご門主は「念仏者の生き方」と題するご親教（法話）を述べられました。このご親教のこころを、より多くの人々に親しんでもらいたいという願いから、「私たちのちかい」と題して4か条の簡潔な言葉にまとめ、昨年秋の法要（11月23日）でお示し下さいました。

お示しにあたり次のように述べられています。

“この「私たちのちかい」は、特に若い人の宗教離れが盛んに言われております。今日、中学生や高校生、大学生をはじめとして、これまで仏教や浄土真宗のみ教えにあまり親しみのなかった方々にも、さまざまな機会に唱和していただきたいと思っております。そして、先人の方々が大切に受け継いでこられた浄土真宗のみ教えを、これからも広く伝えていくことが後に続く私たちの使命であ

趣味の広場



俳句を楽しむ(八十)

森本隆を

今年梅雨入りが遅く、六月も二十六日になつてやっと気象台が梅雨入り宣言を発表しました。しかも降る所では水不足の心配を招く程の降り方で、降らない所では水不足の心配をしなければならぬといった片寄りかたです。高温多湿のこの時期はめいめいが自分の体調維持に気を付けねばなりません。さて、一月の第一〇〇号から季節ごとの食材や料理の句を見ていこう、ということ、今回は春と夏の食べ物を探してみます。明日への体力を考える時、自然の恵みである食材をいかにおいしく食べるかというところがとても大切だと思われま。ではまず春の句です。

一品はうしほに仕立てさくら鯛  
 坊城としあつ  
 めばる煮て心をわかつ皿二つ 古館 曹人  
 砂抜きをあてにはならぬ浅刺かな  
 波出石品女

私たちは瀬戸内の魚になじんで暮しているの  
 で、どれも親しみのある魚貝類ですね。鯛もめ  
 ばるも都会の人が感じるほど贅沢に思わない点  
 が幸せですね。

包丁の切れ味ためす春大根 鈴木真砂女  
 春菊に名脇役の誉かな 小坂 誠子  
 足裏を春筍が押し返す 小林やす子  
 どの季節にも自然は旬の野菜山菜を私たち  
 に恵んでくれます。近頃は技術が進み色々な  
 ものが年中売られています、やはりその季節  
 の旬のものを食べるの一番美味です。三句  
 の面白さは、季節に先がけてまだ寒い頃、  
 竹やぶに入り、足裏に何か弾力のある感じを  
 頼りに頭を地表に出す寸前の春筍を探り当て  
 て掘る面白さを詠んでいます。次に夏の句。

化粧塩打つたる鰯や鮎見事 水原秋櫻子  
 天寿なほ伸びよと母へ初鰹 新井 吉枝  
 子の釣りし小鰯困めり一家族 阪田 昭風  
 初夏の到来を告げる鮎、初鰹、小鰯といっ  
 た海川の幸を中心に、人間の日々の暮しの中  
 の一瞬の幸せ、なごやかさを感じさせられる  
 三句です。

鱧食うて祇園の雨に濡れにけり 角川春樹  
 うの一字長きのれんや鰻焼く 小玉えつ女  
 この二句は家での食事ではなく外食の経験  
 の句です。夏の季節感あふれる句ですね。た  
 だ、この辺では鱧は比較的手軽な値で買えま  
 すが、大阪や京都、特に京都で食べるとべら  
 ぼうに高いので驚きます。

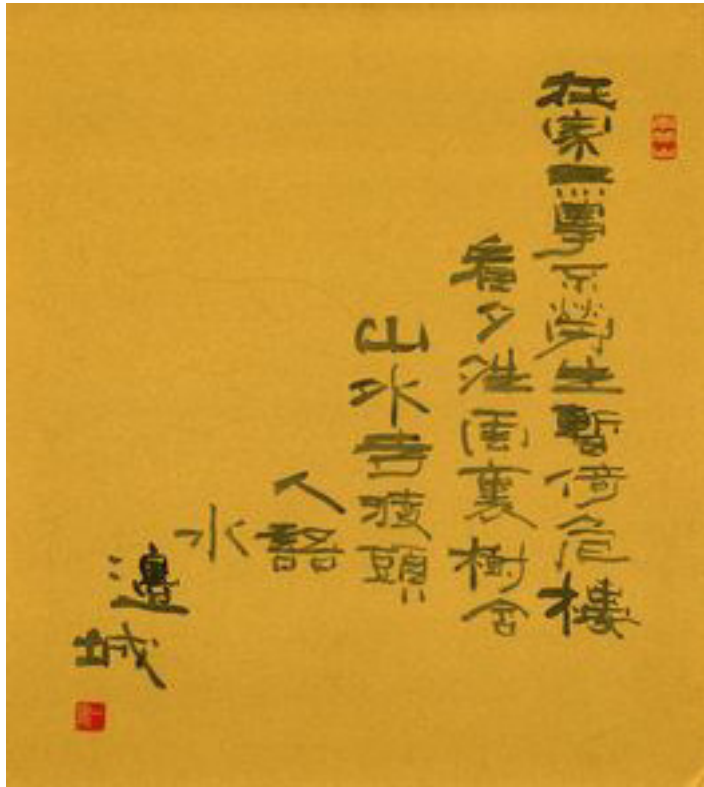
蚕豆の多くぼ緑にゆであがる 松浦 敬親  
 茄子漬けて厨仕事の終りとす 大月多恵子  
 昭和遠し冷しトマトといふ肴 伊藤伊那男  
 夏野菜の代表的なもの三つの句を選んでみ  
 ました。ソラマメの緑、茄子の紺色がかった  
 紫、トマトの赤、どれも鮮やかな色彩感で、

夏の食卓にいつもありそうなものですね。一句  
 めはお父さんとビール、二句めは一日を家族の  
 ために忙しく家事をこなすお母さん、といった  
 姿をすぐ連想します。また、三句め。たしかに  
 昭和の頃は身近な食堂とかスナックの品書きに  
 「冷しトマト」がありました。

春と夏の句を何句か見えてきましたが、これか  
 らいよいよ本格的に暑い夏です。季節の食材を  
 上手に美味しく頂き、猛暑を乗り切って下さい。  
 何年か前に、光明寺さんの門前の掲示板に前住  
 職さんの達筆で、「何がありがたいといつても  
 今生きているという事実には勝るものはない」と  
 いうご法語が貼り出されていました。私は今も  
 その言葉をいつも思い浮かべて、命の有難さと  
 それを支えてくれている大自然や周囲の人々の  
 有難さを忘れないよう努めています。次回は秋  
 の食の句です。皆さん、夏に負けないよう、頑  
 張りましょう。



# 住職書作品



(色紙)

【字句】

在家無事不勞生

暫倚危樓看夕晴

雲裏樹含山外寺

渡頭人語水辺城

索承學

## BOOK 本

「私たちのちかい」のあじわい



発行所 本願寺出版社  
著者 釈 徹宗  
定価 100円+税

平成30年11月23日、秋の法要において、ご門主は、より広く「念仏者の生き方」のころをお伝えするため、その肝要を簡潔な4か条の言葉「私たちのちかい」としてお示し下さいました。

本書は、この「私たちのちかい」を一人ひとりがそれぞれに、自らのこととして、つねに身近に親しんでいただけるよう、平易な表現でその味わいを綴っています。

著者の釈徹宗氏は相愛女子大教授・本願寺派如来寺住職。

「私たちのちかい」の本文は本紙5ページに掲載しています。

# 報恩講

11月13日(水)

おつとめ 13時30分

おはなし 14時

【講師】当山・前住職(予定)

## 光明寺のホームページ

南岳山光明寺

検索



## 言葉のプレゼント

一人の人間は無限の過去とつながっているとともに、無限の未来にもつながっているのです  
ノーベル化学賞 福井謙一



「光明寺だより」をご家族の皆さんで  
お読みください

★次回発行予定：11月下旬



★3月22日(金)午後2時、春の彼岸会法座を小林顯英先生をお招きして開催いたしました。20名の参拝がありました。(＊関連記事4ページ)  
★石鎚山系エリアの魅力を国内外に発信していこうと、立ち上げられた(株)ソラヤマいしづちのホームページに光明寺が紹介されました。  
★6月28日、日本建築文化保存協会理事の三宅理一先生が安藤先生の生い立ちから現在までの歩みを本にするため取材にられました。本の出版は年末になるそうです。  
★住職の長男(光)が7月23日、無事満一歳を迎えました。少し歩き始めました。

